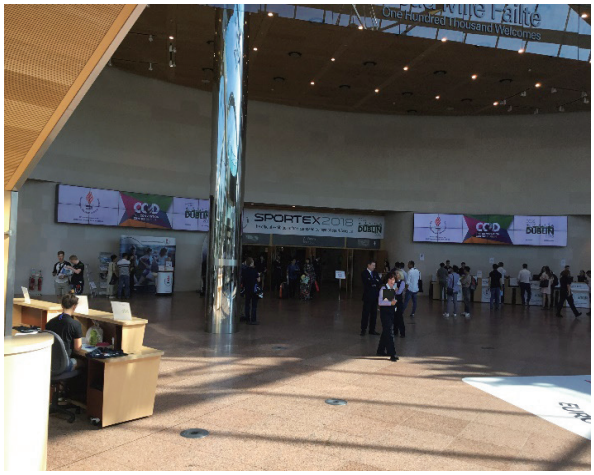
平成30年度　重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）報告

23rd annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE における研究発表

村上　光平*

はじめに

平成30年７月４日から平成30年７月７日まで23rd annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE（第23回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下 ECSS，於：The CCD（The Convention Centre, Dublin, Ireland））に参加し，自身の研究成果の発表を行った．本学会参加は，平成30年度重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）の助成を受けたものである．本稿では，学会大会の様子および発表内容について報告する．



会場となった The CCD の外観とレジストレーションの様子
（The Convention Centre, Dublin, Ireland）

ECSS について

当学会は，1995年にヨーロッパにおけるスポーツ研究のレベル向上およびスポーツに関する科学的な知識の普及を目的とした発足された国際組織である．現在では，年に一度 Annual Congress を開催している．ヨーロッパを拠点とする学会であるにも関わらず，アメリカ，アジア，オセアニアなど世界中から，スポーツ科学領域の研究者が集い，研究成果の発表およびシンポジウムが盛んに行なわれている．また，日本人研究者も数多く参加している．今回参加した ECSS においても，世界中のスポーツの研究者が学会会場に足を運んでいた．また，その領域は生理学，バイオメカニクスをはじめ，心理学，社会学など多岐にわたっており，規模の大きさを実感した．さらに，学会大会中は研究者の演題発表やシンポジウムだけでなく「SPORTEX 2018」という協賛企業によるフロアでの商品展示や実践・体験コーナー等のプログラムが用意されており，企業と研究者の交流の場となっていた．

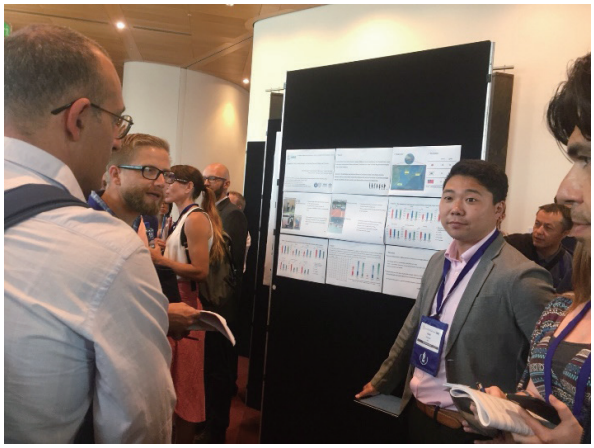
研究発表について

ECSS の一般発表は，「Oral & Invited Presentation」，「Mini-Oral Presentation」，「Conventional Print Poster Presentations」，「e-Poster screens」に分かれており，私は，「A Comparative Study on the Physique and Physical Fitness of Children in East Asia」という演題で，Conventional Print Poster Presentations（ポスター前にて２分間発表と２分間の質疑応答）形式で演題発表を行った．

今回発表した内容は，修士課程時，東アジア

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程２年

（日本，韓国，台湾）の中学生を対象に身体測定および体力測定を行い，各国の子どもの健康問題を提言するための実地研究をした時のものであった．発表後の質疑応答にて，「生活要因の影響はどれぐらいあるのか？」という質問があり，実地調査の拡大（アンケート調査など）の必要性を改めて痛感した．また，終了後のフロアにおいてオーディエンスの１人から，ヨーロッパにおいても子どもや青少年の体力低下，肥満児の増加が問題となっているという現状をお話し頂いた．またその対策として，健康教育や学校体育のカリキュラムを工夫している学校が増えている，ということも合わせて教えて頂いた．わずかな時間ではあったが，今後の研究活動を行うにあたり，建設的な指摘を頂くとともに，非常に有益な知見を得られたと感じている．



筆者の発表時の様子

おわりに

国際学会への参加は今回が３度目であった．しかし今回参加したECSSは，規模，格式など今まで参加したどの学会よりも大きく高いものであった．自身の研究活動の改善点や着眼点，より深い議論をするための語学力など，新たな課題が浮き彫りになったと感じている．しかし，今後このような国際学会に積極的に参加し，またより大きな収穫を得るために自身のやるべきことが，本学会参加により明確化されたと考えている．粛々と研究活動に邁進したい．最後に，本学会大会に参加・発表するにあたりご支援いただいた鹿屋体育大学・前田明教授，福岡教育大学・市丸直人教授および共同研究者の皆様，現地にてご助力いただいた亀田麻依特任助教，本学職員の皆様に厚く感謝の意を表します．